

熊本地震における都市公園の利用実態

日本造園学会熊本地震復興支援調査委員会

●平成28年（2016年）熊本地震都市公園利用実態共同調査

【目的】地震発生後、地域の共助活動に公園がいかに利用されたのか、実態を把握し、今後の公園整備に向けた知見を共有する。
 【方法】最下段掲載の各主体が、2016年8月7～9日に、熊本市内33公園を対象とし、公園管理に日頃より携わる方52人に、面談方式でヒアリング調査を実施した。

公園種別と立地行政区の内訳（公園数）

街区公園	19	中央区	14
近隣公園	10	東区	13
地区公園	2	北区	3
広域公園	1	西区	2
都市緑地	1	南区	1

ヒアリング対象者（人）

自治会会長	25
公園愛護会会長	20
自主防災組織会長	2
自治連会長、老人会会長、公民館長 他	5

質問項目：

平常時の利用、事前の防災準備、地震発生時の行動、避難地形成の過程、避難地としての使われ方、公園内施設や屋内施設の使われ方、行政や避難所との連絡連携、ふりかえり

1. 地震前の災害対応活動

地域独自の取り組み

項目	有無	箇所数
災害対応マニュアル	有	10
	無	20
災害時連絡体制	有	18
	無	12
公園を使った防災・避難訓練	有	23
	無	8

日頃の近所付き合いを大事にすること
 避難場所の周知徹底
 タクシー業者・病院・民生委員連携による
 独居高齢者の避難体制づくり
 駐車場を避難場所として利用できるような企業と協力を構築
 自主防災組織の立ち上げ
 消防署・自衛隊・病院・高齢者支援センターとの連携
 自治会役員が消防団団員を兼務
 ハザードマップの作成、非常食の試食

ハザードマップで予想しなかった場所に被害が生じたこと、自主防災組織が機能しなかったこと、高齢化等による組織的取り組みが困難であったこと、といった課題も挙げられた。

2. 地震発生直後の公園の状況

避難者の特徴や構成

町内の人々がほとんど
 町外から来た人が結構いた
 1/3は外国人だった
 子ども連れが多かった
 犬猫等のペット連れもいた
 造成された新興住宅地からの避難者が多かった
 指定避難場所でない所へ避難し混雑が生じた
 日中は自宅に戻り夜間は公園に来る人がいた
 天候によって人数が違った

避難者への対応や共助

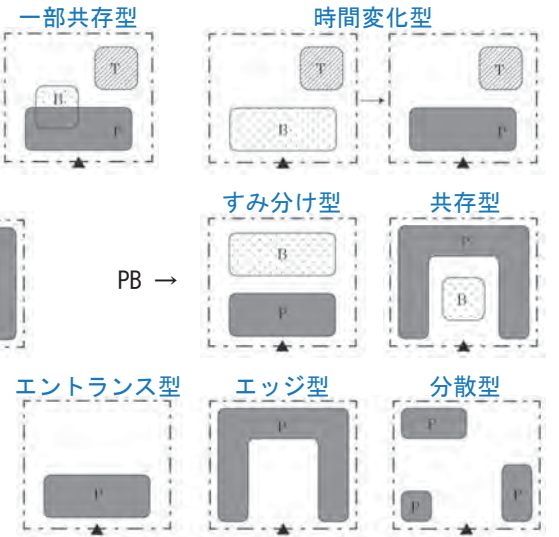
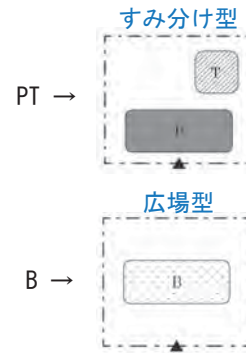
避難者の名簿を作成した
 ブルーシートと毛布を配付
 公民館や老人憩いの家を開放
 車止を開放し車を入れた
 車中泊やテント泊で一杯に
 車のライトで灯りを確保
 支援物資が来なかった
 各戸から食材やコンロを持ち寄り炊き出しした
 自治会役員が水くみなどに従事した
 大学生が運営を手伝った

生じた問題と対応

毛布や敷布がなく寒かった
 駐車場の誘導が不要であった
 断水で生活用水が不足した
 給水待ちの行列ができた
 隣家の井戸水をバケツでくんで公園と老人憩いの家のトイレに利用した
 近所の病院が早く復旧しトイレを利用しに行った
 公園だけ断水しなかった
 近隣の断水地域から公園のトイレを利用しに来た

5. オープンスペースの利用

● P: 駐車場
 ● T: テント
 ● B: ブルーシート
 ● 公園敷地
 ▲ エントランス



6. 公園内にある集会所施設の使われ方

集会所施設がある：17公園
 （老人憩いの家 11、地域公民館 6）

避難活動の内容	施設数
緊急・一時避難	17
宿泊を伴う長期避難*	7
救援物資の集配	10
炊き出し	8
トイレ使用	12
災害対策本部設置	5

【開放時期】
 前震後 9
 本震後 8

【開放期間】
 0～1週間 7
 1～2週間 2
 2～11週間 8

【収容者数】
 10～170人

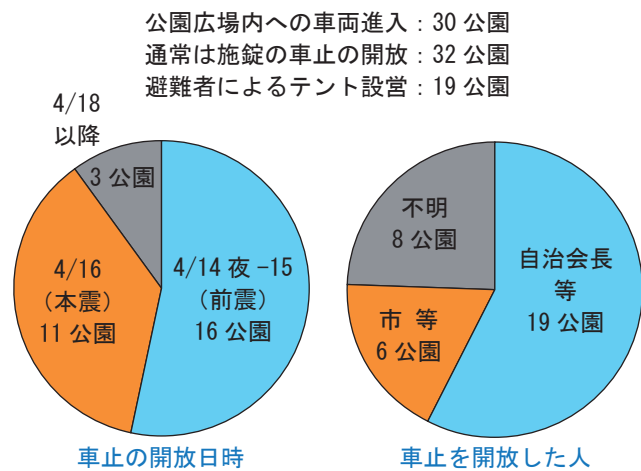


公園内にある集会所施設の例
 （泉ヶ丘校区公民館）

○防災拠点としての有用性
 夜間の避難先、自宅に近い、日常利用で親しみ
 ○施設や運営の問題点
 施設の耐震性、規模、非常時の管理責任、経費

3. 公園における避難地形成の過程

公園に人が集まった理由

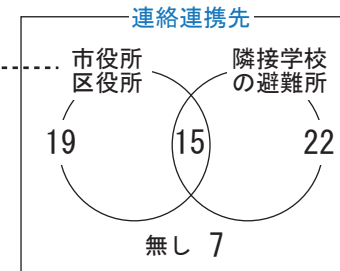


理由	回答数
避難場所だから	10
避難誘導があった	4
皆が避難していた	10
目立つ場所だから	4
救援物資の配布	4
水が使えた	3
トイレが使えた	3
他に広場がない	3

7. 行政や他の避難所との連絡連携

市役所区役所との連絡連携

連絡連携内容	箇所数
救援物資調達	6
状況報告	1
避難者名簿提出	3
病人の対応	1
車止の開放	2
公園内修繕	2
ごみ処理	4
内容不明	3



隣接学校避難所との連絡連携

連絡連携内容	箇所数
救援物資の調達	4
毛布の貸出	1
情報交換	4
避難状況確認	2
避難所運営支援	5
炊き出し支援	5

挙げられた問題点：
 連絡が困難、対応担当者が不明
 連絡連携がうまくいかず
 自治会役員に負担集中
 避難所でなく対応してもらえず

4. 避難地としての使われ方

※救援・医療拠点としての利用はほとんどなかった

あり	なし	【情報収集伝達】	あり	なし	【ライフライン支援】	あり	なし	【防災施設の使用】
11	22	被害確認	4	29	応急給水	6	2	備蓄倉庫
2	31	救援要請	14	19	飲料水の配布	4	なし	(同事前訓練)
9	24	支援物資要請	19	14	炊出・食料配布	5	なし	耐震性貯水槽
4	29	避難所指定申請	5	28	仮設トイレの設置	2	3	(同事前訓練)
5	28	支援情報の広報	2	31	焚火・暖房確保	1	1	マンホールトイレ
			8	25	携帯電話充電	1	1	(同事前訓練)
			7	26	テント等資材確保	1	3	かまどベンチ
						1	3	(同事前訓練)
						1	2	非常用電源

8. ふりかえり

他に、事前準備、共助活動、行政対応に関する意見あり

公園の意義と問題点	防災施設と公園内集会所	災害対応の機能向上に向けて
意義： 広い屋外空間に居る安心感 家に近い、車の避難場所 炊き出しや物資集配の場所 トイレ利用可、水利用可 問題点： トイレの不具合と必要性 給水施設の不具合と必要性 屋内施設の必要性 トイレ利用のルールとマナー 雨対策、寒さ対策 駐車利用の長期化 他	意義： 備品や貯水槽が役立つ 屋内施設は高齢者に良い 使いやすい、居心地が良い 雨風や寒さをしのげる 問題点： 備蓄品の不備や不足 施設管理の責任が不明確 使用方法がわからず 屋内施設の耐震性 設備類の不具合 閉所のタミングや後整理 他	必要な施設： 仮設トイレ(マンホール穴数を多く) 給水施設(井戸、雨水タンク等) 備蓄品の配置や充実 屋内施設、入口の拡充 利用や管理運営の留意点： 災害対応マニュアルづくり 防災訓練の改善 防災施設整備の行政支援 日時的な公園管理の継続 自治会等の組織体制の維持 普段のつきあいの継続 他